No. 30

CPC 事務局長の来訪

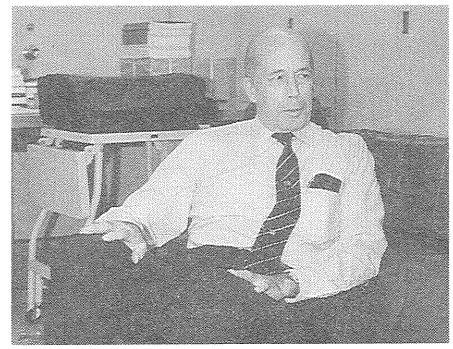
環太平洋エネルギー鉱物資源理事会（CPC）のライネムンド事務局長（Dr. Jhon A.Reinemund）が CCOP 年次総会（バンコク）の帰路 11月5日夕刻着で来日した．同博士は米国地質調査所の前国際地質部長で 現在は環太平洋マッププロジェクト（CPMP）推進の立役者として活躍している． 今回の来日目的は 1988年秋に日本で開催が予定されている CPMP 会合とシンポジウムに関する事前協議が主である． 滞在日程は以下の通りであった．

11月5日（木）	来日	筑波泊
6日（金）	地調訪問 1988年 CPMP 会合の筑波地区会場予察地（調及び工技院共用講堂） CPMP 国内パネル会議出席	筑波泊
7日（土）	筑波地区見学 東京へ移動	東京泊
8日（日）	休日	東京泊
9日（月）	東京地区関連会合出席 工技院国際研究協力課訪問	東京泊
10日（火）	離日	

筑波大学佐藤 正教授（東南アジアテクトニックマップワーキンググループ議長） 元所員野沢 保氏（CPC 理事）井上次長（北西区画パネル議長）ほか当所のパネルメンバーが参加して開かれた6日の国内パネル会議では 参加者とライネムンド博士との間で 今後の活動計画 特に来年に日本での開催が予定されている CPMP 議長会議並びに国際シンポジウムの話題を中心に 活発な討議が交された． すでに発足している同会合の準備委員会において 海外室が事務局を務めることが決定されており 今回の意見交換は 具体化に向けての有意義な機会となった．

（倉沢）

フィジーの旅行事情



昨年5月14日に発生したクーデター以降 フィジーの政情は未だ安定するに至っていません． この間 JICA 派遣専門家として現地（スバ）に滞在中の奥田義久技官からは 数度に亘って状況報告が寄せられています．最新の報告によれば 一応鎮静化の傾向にはあるものの流動的要素が多く まだまだ予断を許さない現状にあることが読みとれます． この報告は フィジーの政治・経済・外交・社会情勢を詳細に述べると共に 旅行事情についても触れています． フィジーへ出かける予定の人には大変参考になると考え 以下に紹介しておきます．

（1） 入国審査官

入国に際し1か月の滞在ビザをくれるが これ以上の期間滞在する場合は入国管理事務所に出頭し長期滞在ビザをもらう． 従来この手続きは簡単であったが クーデター後は全ての手続きにランブカ元首のサインが必要なため 4週間以上の期間がかかる．

（2） 税 関

観光客が少ないため入国者数に対して税関職員が多く入国に際しては寄ってたかって質問を受ける． 現在開梱なしに税関通過をすることはまず考えられない．しかし 道理を通して説明すれば特に問題はない．

		ツィン／シングル
スバ地区		
トラベル・ロッジ（高級）		F$　95／　88
グランド・パシッフィック・ホテル（古風）		F$　45／　35
キャプリコーン・ホテル（食堂なし、自炊施設・プール付）		F$　42／　34
タウンハウス・ホテル（食堂・自炊施設付）		F$　48／　40
スバ・ホテル（低級）		F$　4程度
リゾート地区	スバからの時間	
パシッフィック・ハーバー（ゴルフ向）	1　時間	F$　85／　75
ハイヤット・リジェンシー	2　〃	F$108／　90
フィジアン・リゾート（若者向き）	2．5　〃	F$140／120
リージェント（家族づれ向き）	3．5　〃	F$172／125

（3）　空港警備

スバに行くにはナンディ空港で国内線に乗換える必要がある．　ハイジャック防止のための手荷物検査は軍が担当しており　全ての荷物の開放を求められ警備は成田空港より厳しい．

（4）　外貨交換

クーデター後外貨事情が悪いため　噂によれば出国に際し銀行で外貨交換制限（約1000米ドル）がある模様．持ち出せても手続きが面倒なようである．　現金は持込まないほうが安全で　短期旅行はＴＣを使用することを勧める．　逆に　外貨から国内通貨への交換は簡単である．　交換レートは　1米ドルが約1.47フィジードル（11月16日現在）であり　短期変動は比較的少ない．　銀行は　月曜—金曜の10-15時に開いている．　ナンディ国際空港の銀行は　24時間開いている．　最高級ホテルでは　宿泊客にかぎり夜間も交換するが　中級ホテルでは交換できない．

（5）　ホテル事情

ホテルは外国から予約すると高いが　こちらで予約すればかなり割引きがある．スバにはリゾートホテルはないことと　商店が休日は閉店のため　スバの休日は退屈する．　多少高いが西海岸のリゾートホテルを利用すれば　各種のショー（第2回クーデター後は　現在のところ休日にはない）もあり退屈しない．　スバ地区のホテルの宿泊料は　ツインで50フィジードル程度であるが　リゾート地区では約2～3倍が目安となる．　景色及びフィジアン・ショーの豪華さは　概ね料金に比例している．　このほか離島リゾートホテルが多数あり格安である．

（6）　交通事情

国際線飛行機はカナダ航空のみが信頼でき　日本航空　ＮＺ航空　コンチネンタル航空（米国）は　事実上欠航状態である．　カンタス　太平洋航空の利用は可能であるが　政治情勢及び労働組合の動きで突然変更があり予約期間が長い場合は必ずしも信頼できない．　出国時の空港税は　10フィジードルである．

また　11月からナンディー成田間のＪＡＬ路線が経営上の理由で停止されたため　日本との往復は自動的にハワイまたはシドニー経由とならざるをえない．

国内線は事実上不定期運行で　ナンディでの乗り継ぎはかなり待たされる事が多い．　空港警備は軍隊により厳しく行われ　教養のない軍人には正論は通じない．このため　梱包を壊されることもある．　従って　ナン

ディースバ間はタクシーの利用を勧める.

タクシー料金は　料金があって規則がないようなもので　時にはメーターが壊されている.　全体に中古車のオンボロ車で　新車に乗るとぼられる話を聞く.　又旅行姿で領収書を要求すると　高いチップを料金に上乗せ要求する話も聞く.　特に　ナンディ地区では注意が必要である.　乗車前に料金を交渉して領収書を発行できるかを確認して乗車すること.　特に長距離を乗車する時は標準料金を予め調べておくことが必要である.

（7）　食事について

スバの食事は　他の後進国に比べ全体に日本人が絶対食べられない程のものは少ないが　味は全体に塩辛い食事の値段はホテルを除けば一人5ドル以内でアルコール抜きの食事ができるが　アルコール類は比較的高く日本の値段に近い.　日本人には中華料理が無難である.チップは不要.

（8）　ナイトライフ

現在治安が悪いためあまり推奨出来ないが　スバのナイトクラブについて触れる.　スバのナイトクラブはいわゆる日本のディスコであり　夜8時前は人がほとんどいない.　概ね夜の8時から1時ぐらいが適当な時間である.　日によってあるいは店によって異なるが　入場料は1-3ドル程度　ビールの小グラスが2-3ドル程度であり　20ドルも持っていれば　踊れなくとも雰囲気を十分楽しめる.　一人で行くとパートナーは見つけにくい.　何が起きても40ドル以上は持っていく必要はないので　治安を考えて行動することが大事である.　スリ及びゲイに用心し　トイレ等も注意すること.　バリハイ　チェッカーズ　ラッキーエディース　ゴールデンドラゴン等のナイトクラブが有名である.

このほか　一流映画が1-3ドル程度の格安値段で見ることができる.　夜の開始時間は5時と8時が一般的であり　映画館及び映画の種類も多い.　映画館は　マーク通り周辺に多い.

（9）　買　物

平日の9-17時及び土曜の9-13時にカミング通り　マーク通りに多くの土産物店が開いているが　値段は交渉次第で値札の70%程度にまでまけさせる事ができることが多い.　日曜日の午前中は郊外のスーパーマーケットが開いており　値札通りの値段で簡単な土産物は買うことができる.　市内の代表的なスーパーマーケットはモーリスヘッドストロム（トムソン通り）である.

スーパーマーケットを除けば　観光船がスバ港に入っている日は値段が高くなるので注意を要する.　通常木曜日と金曜日にバーゲンが多い.

（10）　その他注意事項（11月16日現在）

日曜日は宗教行事の活動のための外出を除き外出禁止である.

日曜日のあらゆる運動（ゴルフ・ピニがックを含む）も禁止されている.　外国人観光客は高級リゾートホテル内で活動可能ではある.

日曜日の仕事も一切禁止されている（商店も全て閉店）

日曜日の公共交通は空港往復を除きストップしている.（軍の検問にパスポート及び航空券が必要　高級リゾートホテルでは　自前でマイクロバスを運行している）

日曜日のドライブは　解除された.

軍の活動の写真撮影は禁止されている.

（奥田　義久）

タイトル・カット・イメージ

海外室だよりのタイトル・カットは　これまで乾燥地域　海洋　山岳地帯とバックを移して　国際調査のイメージを画いてきました.

今回はモグラ・ムードでせまってみたいと思います.

天然の洞穴や鉱山の坑道　さらには建設中の鉄道や道路のトンネルは　地質やさんにとっては直接岩盤と対峙できる絶好のポイントと聞いています.

そんな雰囲気が出せていれば幸いです.

私も今の穴ぐら（海外室）に入りこんで　もう一年半以上過ぎました.　少しづつ目がなれて壁のデコボコが見えるようになってきました.　もうしばらく　奥に向かって歩いてみたいですね.

（河村）

地質ニュース　第401号　1月号
定価 ¥630　〒実費
昭和63年1月1日　発行
編集　工業技術院地質調査所
発行人　林　久　雄
発行所　株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段南4の2の12
〒102
Tel. (03)265-0951（代表）
振替口座 東京1-32466
総発売元　株式会社 実業公報社 出版事業部

©1988 Geological Survey of Japan